

牛乳乳製品市場の不確実性が高まる

欧州委員会「牛乳乳製品市場観測サイト」2022年3月会合報告より

欧州委員会が開設している「牛乳乳製品市場観測サイト(Milk Market Observatory = MMO)」の経済委員会3月会合が、ビデオ会議方式で開かれた。同会合の報告書(*1)では、EUの近況として2022年1月の生乳生産量は前年同月比で0.7%減少したこと、庭先乳価が上昇を続ける一方で飼料やエネルギーのコストも上昇していること、乳製品価格が上向くとともに民間在庫量は記録的な低水準になっていること、食品インフレが乳製品にも及ぶ可能性があることなどについて報告している。世界の主要な乳製品輸出国では2022年1月の生乳生産は前年同月比1.8%減少し、昨年過去最高を記録した世界の乳製品貿易は、今年は減少する見込みであることなどを述べている。報告書は飼料やエネルギーなどのコストの上昇、ウクライナ情勢でさらに進んだ資材コスト増、そして需要の依存度が高い中国において新型コロナによる都市封鎖が再び行われていることなどが、乳製品市場にかつてないほどの不確実性をもたらしていることを指摘している。現在、わが国は、国産乳製品の過剰在庫に対策が講じられているが、国内の牛乳乳製品市場の約3割を輸入乳製品に依存している構造は変わらない。MMO報告書にもある国際的な乳製品需給の逼迫と国際価格の高騰が、今後も続くことになれば、粉乳調製品・ホエイ・チーズの輸入価格も高騰し、わが国の乳製品需給にも大きな影響を与える可能性もあり、こうした状況にも注視することが必要である。以下に報告書の要約を紹介する。(読みやすさを考慮し、Jミルクで小見出しなどを補った)

MMO 経済委員会の第41回会合は、以下のミルクサプライチェーンの専門家の参加を得て、ビデオ会議で2022年3月21日に開催された。

- COPA-COGECA (欧州農業組織委員会・農業協同組合委員会)
- CEJA (欧州青年農業者協議会)
- EMB (欧州酪農委員会)
- ECVC (ビア・カンペシーナの欧州組織)
- EDA (欧州乳業協会)
- Eucolait (欧州乳製品輸出入・販売業者連合)
- Eurocommerce (欧州商工会)

会合でのプレゼンテーションと情報交換では、次の点が強調された。

EUの2022年1月の生乳生産量は前年同月比0.7%減

2022年1月のEUの牛の生乳集乳量は、2021年1月の水準をわずかに下回った(-0.7%)。特に、アイルランド(-4.1%)、ドイツ(-2.2%)、フランス(-2.2%)、オランダ(-2.7%)など、EU加盟国のうち、14か国の生乳生産量が減少したことを報告した。

2021年1月~12月のEUのチーズ生産量は、2020年比で1.9%増加した。また、クリームの生産量も増加した(+2.7%)。その他の乳製品の生産量は、濃縮乳(-1.5%)、全粉乳(-12.1%)、脱脂粉乳(-6.2%)、バター(-2.7%)、はっ酵乳(-2.1%)、飲用乳(-0.3%)といずれも減少した。

EUでは庭先乳価が上昇を続ける一方、飼料やエネルギーのコストも上昇

EUの平均庭先(牧場出荷)乳価は、2021年の各月で上昇し、2022年も上昇を続け、近

年の水準を大きく上回っている(2022年1月は1キロ当たり42セント)。2022年2月の加盟国の予測では、さらに上昇し1キロ当たり42.3セント(1月比+0.7%)となる見込みである。2022年1月の生乳価格は、すべての加盟国で1年前より上昇し(キプロスの-0.8%を除く)、特に、ラトビア(+43%)、リトアニア(+40.8%)、ベルギー(+39.1%)、アイルランド(+37.6%)で最も上昇したと報告された。

EUにおける酪農生産のための飼料コスト(穀物、菜種粕、大豆粕の混合物に基づく)は、第10週には、過去4週間の平均と比較して16.1%上昇し、エネルギーコストは同期間に25.2%増加した。

EUでは乳製品価格が上向くとともに、民間在庫量は記録的な低水準に

EUの平均乳製品価格は過去4週間において上向き、いずれも1年前よりはるかに高い水準にある。EUの脱脂粉乳価格は2014年4月以来の高水準に達し、全粉乳価格は記録的な水準になっている。EUのホエイパウダー価格は、2007年7月以来の高水準となっている。2021年の年初以降、バター価格は58%上昇し、脱脂粉乳価格は55.8%上昇した。脱脂粉乳(+90.2%)、全粉乳(+65.3%)など、すべての乳製品価格はここ5年間の平均を上回っている。

供給(生産量+輸入量)から需要(国内消費量+輸出量)を差し引いた残余乳製品に基づくEU在庫レベルの評価は、市場が供給過剰から供給不足へと変化したため、年間のこの時期としては民間の脱脂粉乳在庫量は記録的に低くなっている(約6万トン)。EUおよび全世界レベルで生産量は減少しているが、需要は引き続き旺盛である。バター在庫は、生産量の減少、健全な需要、および非常に少

ない輸入により、2021年の年末に大きく減少した(約7万5000トン)。春には在庫は通常より低下する。チーズ生産量の増加は需要に完全に吸収され、在庫は非常に低い水準(25万トン未満)にある。

世界の主要輸出国の2022年1月の生乳生産は前年同月比1.8%減少

米国、オセアニア、英国でも生乳生産が鈍化している。2022年1月の主要輸出国・地域(オーストラリア、EU、米国、英国、ニュージーランド)の生乳集荷量は全体として前年比1.8%減少した。

世界の乳製品貿易は昨年過去最高を記録したが、今年は減少する見込み

コロナ禍や物流上の課題にもかかわらず、2021年も世界の貿易量は記録的な年となったが、最後の数ヶ月には若干の減速がみられた。2021年1月~12月の世界の輸出量(生乳換算)は、EU、ニュージーランド、米国が76%のシェアを占めた。EUと世界の乳製品輸出は、供給不足と価格高騰の影響により、今年は減少する見込みである。

ウクライナでの戦いによる乳製品貿易への大きな直接的影響はないと思われるが、後々、反動が現れる可能性はある。ウクライナへの主な輸出乳製品はチーズであるが、EUの域内消費は難民の増加などでも拡大すると予想される。2021年には中国の輸入が増加したが、コロナ禍による都市封鎖の期間延長が現在は需要に影響を及ぼしている。粉乳(脱脂粉乳、全粉乳、ホエイ)は昨年に最高の実績を示した。米国、中国、英国が昨年のEUの主な輸出先であった。

EUでは食品インフレが乳製品にも及ぶ可

能性も

欧州の家庭の消費意欲はここ数ヶ月で縮小している。食品インフレが小売売上高に影響を与え始めている。2021年に、新型コロナへの措置の緩和と並行して、乳製品の家庭消費量と小売売上は概ね減少した。フランスでは2021年に有機乳製品の売上が再び減少した。

欧州委員会は、4月初旬に発表される次の短期見通し (Short-term outlook for agricultural markets) の主なドライバー (要因) を紹介した。世界とEUの生乳供給は、2022年の前半は厳しい状況が続くが、年末にはわずかに回復する可能性がある。飼料の費用負担から、乳量の伸びは昨年と同程度にとどまる可能性があり、一方でEUの乳牛頭数はさらに減少する可能性がある。投入コストの上昇は、食品インフレを乳製品にももたらし、2022年にチーズとバター消費量の伸びを低下させる可能性がある。

牛乳乳製品市場の不確実性が高まる

今回の会合のキーワードは「不確実性」であった。投入資材コストの上昇、ウクライナでの戦いでより悪化した主要投入資材の入手への負担、そして新型コロナによる都市封鎖が再び行われている中国への需要の依存度の高さが、乳製品市場にかつてないほどの不確実性をもたらしている。

参考資料:

- 1) https://ec.europa.eu/info/sites/default/files/food-farming-fisheries/farming/documents/mmo-report-2022-03-21_en.pdf MMO economic board meeting report – 21 March 2022. European Commission.

(資料閲覧:2022年3月25日)

(Jミルク 国際グループ 新光一郎)